

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100644		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生事業福祉会 理事長 野口 駿		
事業所名	はなぞのケアセンター グループホーム		
所在地	熊本県熊本市花園7-25-23		
自己評価作成日	平成21年9月24日	評価結果市町村受理日	平成22年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成 21 年 9 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の主体性を尊重したケア ・地域との交流 ・季節の行事を取り入れた会食 ・農園活動・収穫祭・試食会
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域の中で複合ケアセンターの1つとしてグループホームが運営され、地域交流を大切にされている姿勢が伺えます。開設から1年、体制作りや日々の業務の円滑化を図りながら利用者の生活の場を支えて来られたようです。今まで以上に利用者の意向や思いを職員全員が周知し利用者1人ひとりの個性を大切に生活の場作りを目指される事を期待します。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し職員全員が共有するべく、事務所等にも掲示し、実際の介護場面で生かせる様努力している段階である。	法人の基本理念を基に複合ケアホームはなぞのケアセンターとしての事業理念を作られ、グループホームのミーティング等で話し合われ共有する機会を持たれています。	事業理念にある「自己決定」、「生活の継続」、「能力の発揮」とはグループホームで生活することでどの様に実践されているのか、職員全員で共有されると理念がより身近なものになると考えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には散歩をおこない近隣の店舗へ買い物に出かける等、日常生活での交流を図ると同時に、夏祭り等の地域行事にも積極的に参加し地域密着型の支援をおこなっている。	立ち上げの段階から地域交流を意識され活動されています。毎日の散歩での挨拶や近所のスーパー等自然な形で付き合いを心がけておられます。又、事業所での夏祭りやどんどや等のイベントに地域の方を招待され、顔馴染みになる機会を多く持つようにされています。自治会や老人会への加入はありません。	事業所が地域の認知症の拠点となることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議等に於いて民生委員や家族代表の方を中心に情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表や民生委員の意見は地域密着型の意見の要素が強い為、設備やサービス上の要望点など改善の参考にしてている。また地域行事の予定等の情報収集にも役立てている。	併設の小規模多機能型住宅介護事業所と合同の運営推進会議が2ヶ月に1回開催され、活動状況の報告や、利用者・家族からの意見を聞くようにされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特別な事情以外では、市との連絡はとっていないのが現状である。	介護保険の代行申請等の際や事故報告書提出等、市町村と連携をとるようにされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束に対するマニュアルを作成し、各事業所に配布している。	身体拘束マニュアルを作成され勉強会の開催等で職員の周知を図るようになっています。又、職員の言葉や表情が利用者に動揺を与えないように心がけておられます。玄関は夜間のみ施設されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会がまだ設けることができていないが、虐待行為の防止のため、定期で管理者が巡回を行うなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等において成年後見制度について学ぶ機会を設けており、活用が必要な相談がある場合は対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者が施設サービスを開始される場合などの内容や料金の問題、サービスの提供状況等を説明し、理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置し、ご家族や来訪者の意見や要望を求めている。また運営推進会議にて意見・要望を聴取し、業務の改善に反映させている。	小規模多機能型居宅介護事業所と共有のスペースに意見箱が設置されています。家族面会時等に意見を聞いたり、何気ない言葉も聞き取るよう努力されています。	利用者・家族の本音を引き出す方法や、吸い上げた意見のフィードバックの方法を工夫される事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案書を作成し、運営や業務改善点等提案できる体制を作っている。その他、ミーティング等でも意見を聞く機会を設けている。	月1回の職員ミーティングで意見を聞くようにされています。	職員から具体的な意見がでていますが、それをまとめられ、解決方法等文書に残されていると今後役に立つ事も多いことでしょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダーと職員との月1回の個別ヒアリングを実施し、業務内容・設備・福利厚生等の改善要望を聴取し、職場環境の整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	トランスファーや嚙下などの勉強会を実施しており、外部研修に関しても案内文を職員掲示板に掲示し参加促している。その他、新人には教育担当を付けOJTにて教育できるようシステム構築中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会が定期的開催されている為、その際他事業所の実際の現場状況等を学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活や金銭的な問題など御本人が何度も繰り返し不安を訴えられる事項について、傾聴を心がけて都度対応することによって、良好な関係を築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面会の時に必ず声をかけコミュニケーションを図るようにしている。又月1回は近況報告のお便りを出し、信頼関係を得る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験のある職員が家族の思い、本人の状況をまず聞きたくさんの情報を得ることから行う。この方の必要な支援は何なのかを判断、アドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活かす為の作業(料理、洗濯物たたみ、干し、園芸)等教えていただいて笑い声もよく出て職員も勉強になっている。一緒に生活を過ごしていく手助けを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会がある場合は面会時に、ない場合は電話・月1回のあいさつ文の送付を通じて、ご家族とのコミュニケーションをとるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会見られているため、その際は、また来て下さいと声をかけ、良好な関係が築かれる様に支援している。	利用者の馴染みの方の面会時等に声かけし、今後も関係が継続するよう依頼されることがあります。	待つ姿勢ではなく、利用者の馴染みの人や場所への訪問等、事業所側からの積極的な取り組みを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自ら自己表現が出来る方や他者とのコミュニケーションが好きな方についてはその状態を維持し、また内向的な方や認知症の方については職員の誘導により支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居されても医療機関などでの面会や、電話連絡などで近況を伺う等、交流を行う事で関係が完全に途切れない様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話等の中から本人の思いを知り、ケアプランの中に反映させている。何気ない会話の時に本音が聞けたりする為必ず記事に残し家族へも伝える様に努力している。	家族面会時での聞き取りや、以前利用されていた事業所等からの情報、又、本人からは入浴時等の日常生活の中で思いや意向をくみ取るようされています。	思いや意向をくみ取るように努力され、その場で解決されているようですが、その思いや意向を生活に活かすためにも記録に残されケアプランに反映されることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書は職員全員が必ず一読するように徹底している。また面会時の情報収集やご本人様との昔話の中で話される事もあり記事に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴を把握した上で人生の歩みを職員が把握しながら一人一人の生活スタイルを観察し、ADLの変化について記録を行い、申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とのカンファレンス、本人、家族から情報収集を行いケアプランを作成している。又他職員の意見やアイデアを参考にし、それをケアプランに反映させている。	介護支援専門員が介護計画を立案し家族、介護担当者を含めてサービス担当者会議で話し合われています。見直しは介護保険更新時や状態変化時に行われていますが、毎月のモニタリングが十分とは言えません。	毎月のモニタリング等、チームリーダーであるケアマネ本人も不十分ととらえておられます。今後アセスメントや介護計画、モニタリング等をチームで行い、利用者の課題解決に望まれる事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や会話内容から気づき等を記録し、職員は勤務に入る前に必ず記録に目を通す事で職員全員へ情報の共有を行いケアに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズや本人の状況に対応し、医療機関への入院や老人保健施設の利用などの支援実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方や小、中学校との交流会の場を設けている。また地域行事への参加、地域名所への外出等交流を推進している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望に沿った医療機関へ受診を行っている。必要時、医療機関とも連携を図り、関係構築に努めている。	基本的に受診支援は家族に依頼されています。緊急時等は緊急時のフローチャートに基づき対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在GHIには看護師は配属されていないが、併設の小規模多機能の看護師による協力体制を整えている。不在時でも連絡は可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	GHのリーダーが病院関係者と情報交換を行い、医療機関が必要とする情報に関しては速やかに対応している。協力病院には定期的に訪問し、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の悪化時はかかりつけ医師の協力の下、本人、家族、GH担当者が話し合い、御本人と家族の意思を尊重しその結果を受容し、方針の共有を行っている。	重度化した場合における対応指針を作成され、それに基づき利用者・家族に説明が行われています。終末期の対応経験は未だありません。	重度化や終末期についての具体的な対応方法等職員全員で共有されて臨まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で実施されている、消防署による緊急時の対応訓練には、参加可能な範囲で参加している。当センターでは、看護師より勉強会実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成21年度は消防訓練は1回実施した。地域の方などには、運営推進会議で避難訓練などの協力を得ている。	消防訓練が年2回行われ、1回は夜間を想定して行われ一次避難場所としては近くの空き地と決められています。各部屋に煙探知機、スプリンクラーが設置されています。	今後地域の消防団や地域住民の協力体制についても検討され、より一層の災害対策となることを期待します。又、有事の際の避難場所等についても地域住民や家族の方が周知されているといいですね。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の接遇勉強会、施設内の接遇研修を通じて職員のスキルを向上させ、失礼の無い声掛けや対応を心掛けている。職員会議で検討したケースもあり職員全員へ周知徹底している。	法人全体で接遇やプライバシーの保護について勉強会が行われ、日常的にチームリーダーが中心となり、注意しあったり、ミーティングで話し合う機会を持つようにされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員もゆっくり、わかりやすい説明を心がけ、ご本人のYes、Noを確実に把握して行動するようにして、御本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、レク、以外は自分のペースで過ごされている。散歩などの希望があれば時間を調整し、出来るだけすぐ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着については入浴時に必ず交換し洗濯している。理美容はGHの協力理容店へ依頼し、GH内で対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるだけではなく、台拭きや野菜の皮むき食器集め、かたづけ、など利用者一人一人の能力に応じた活動を行っていただき達成感をもって頂けるように支援している。	グループホーム内の厨房で3食提供されています。米研ぎや野菜の下ごしらえ、自家菜園での野菜の収穫や食事の際のキッチンマットの選択、外出時はお弁当等、食事を楽しむことができるよう配慮されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好まれる食事や飲み物を取り入れ、栄養面や水分量の確保をするとともに、食事量の確認も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後3回、口腔ケア実施している。拒否者はうがいに対応するなど、個人のペースに合わせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関しては、本人からの尿便意の訴えや排泄パターンを職員が理解し定期的に誘導をおこなっている。	排泄パターンをチェックし、誘導することでトイレでの排泄ができ、尿とりパットの使用が減り、利用者の不快感の軽減に努められています。又、排便時のサインを見逃さないように目配り気配りをするよう努力されています。	排泄誘導や排泄時の利用者の変化等職員間での申し送りはされているようですが、そのサインや方法等が記録や計画に残されていないことが残念です。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を多めに取り入れて予防に努めている。また水分補給を定期的に行うとともに散歩等の運動を行うことで自然排便を促すように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人の希望を最大限に取り入れ、入浴を楽しんでいただけるよう努力している。	週3回入浴を基本とし、入浴を好まれる方は毎日支援されています。入浴拒否の方には会話等で工夫し対応されています。又、季節での菖蒲湯や柚子湯等で楽しむことができるよう配慮されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の希望がある場合は勿論のこと、日常生活の観察の中で職員が必要と感じた場合には声掛けをして臥床誘導を行うなど、ゆっくり過ごしていただけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに内服薬の効能を保管して職員は全員確認している。また内服薬の準備時点でのチェックと服薬時の二重チェックをして、誤薬誤飲防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事的な作業や入所以前に持たれていた趣味的な活動を取り入れている。また地域名所等への外出や施設内外での行事へ積極的に参加する事で生活の中に刺激を持っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人の希望があれば、ご家族にも了解を得た上で外出や散歩にお連れするように努力している。	天候をみながら散歩や近所のスーパー等への外出支援が行われています。又、利用者の要望にあわせて、クリスマスのイルミネーション見学やホテル見学等の外出支援がなされています。	今後も計画的な外出支援が行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、ご家族等に管理を依頼しているが、必要な際は、ご家族に相談し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡等の支援は本人が希望する場合、おこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にホール内に歩行の障害となるような余計なものを配置せず、童謡などのBGMを流したり、テレビの音量をこまめに調節したりして、快適な空間作りに努力している。	1年前に開設され、ゆったりとした共有スペースが確保されています。庭の畑に季節の野菜を植えたり、窓から外の景色をながめ季節の移り変わりを感じることができます。	新築ということもあり、清潔感あふれた建物になっています。生活感が薄い事はリーダーも懸念しておられ、今後様々な工夫をしていきたいと考えられているようです。それが実現し利用者の方がより快適に過ごして行かれることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室と共有ホールがすぐに行き来できるので、自分の気分やペースに合わせて生活できる。また庭が見える共有ホールも自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や小物類等で御本人やご家族の希望で持ち込まれたものについては、居室内でご利用いただいている。室内掃除等でも基本的に配置は動かさない。	広いクローゼットが各居室に整備されています。使い慣れた物を持参することは可能です。写真や絵等好みのもので飾られています。	その人らしい部屋作りをしていきたいとリーダーの言葉があります。それを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の能力に合わせた作業(洗濯物干し、たたみや食事の下準備等)を職員と一緒にやっている。またGHの庭に自家菜園を作り、簡単な農作業を楽しんでいる。		